

人と自然と文化にやさしい地域づくり

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

明日を拓く — 成果を検証する —

3

令和4年 No.1321



令和2年度 第73回山口県学校美術展 推奨作品
「ジレンマ」

山口県立大津緑洋高等学校1年（受賞時）うらだしろうた内田 翔太

■卒業式に込める思い

下関市立安岡小学校 校長 久保 晴宣
防府市立小野中学校 校長 徳本 正

■ありがとうわが学校

岩国市立美川小学校 6年 中野 美優
山陽小野田市立津布田小学校
6年 高田穂乃果
下関市立名池小学校 6年 梶野穂乃果
下関市立垂江小学校 6年 八木 美月

■やまぐちでの学びを生かす

山口大学教育学部学校教育教員養成課程
小学校教育コース小学校総合選修
4年 大賀 春来
山口県立大学看護栄養学部栄養学科
4年 上利 華穂
山口学芸大学教育学部教育学科
4年 佐伯 大貴
宇部フロンティア大学短期大学部保育学科
2年 櫻井野々花

■郷土の歴史を後世に残す

ふるさと豊田の歴史塾 塾長 伊藤 修二

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：西岡 尚



あなたの
アクションは...

山口県教育会がすすめる
「元気やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなく 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない
美しいやまぐち



地域愛を 受け継いで



下関市立安岡小学校
校長 久保 晴宣

本校は、下関市北西部に位置する児童数753人の大規模校である。明治6年、学制の発布に基づき設立された148年の歴史と伝統のある学校である。校内には、歴史を感じさせるものがいくつか残っている。その一つが以前ほどの学校にもあつた二宮尊徳像である。



第4校舎と体育館

昔は二宮尊徳翁を模範的人物として、毎週朝礼で、徳行を話して聞かせ、進んで働くという気風を養成したり、学用品等を大切にして物を粗末にしない精神を養ったりという教育を推し進めていたという記録が残っている。また、校舎北側西門には、栄光の碑が安岡小の誇りとして燦然と輝いている。昭和51年全国学校音楽コンクールで最優秀校となったときの記念碑である。時代は変われども、校風や一つのことを情熱を傾け、熱心に取



二宮尊徳像

り組む児童の姿は今も様々な活動に受け継がれている。現在、安岡小学校は、「心安らぐ学びの岡」をキャッチフレーズとし、

中学校・地域との連携を柱とした教育活動を行なっている。小中合同の学校運営協議会で、児童生徒の状況を報告した際には、地域の方々から熱いエールが贈られる。そして、自分たちにできることは子どもたちのためにやってあげたいという気持ちが強いと感じている。地域の方々の安岡愛はすばらしい。この度もまちづくり協議会の支援を受け、「登下校見守りハンドブック」を作成していただき、見守り活動の輪を広げる取組が始まった。さらに、毎年、全ての自治会が中学生と協力し、近くのホタルが生育する友田川を守る清掃活動を行っている。小学生も5月にホタル採集を行い、秋まで幼虫を育て、友田川に放流している。この活動は、子どもたちの心を育む活動として地域の方と協力して行い、25年前からずっと続いている。飼育期間は、ホタル小屋に毎日地域の方が来られて、4年生の飼育当番と共に世話をしている。飼育小屋には、低学年を中心に様々な児童が観察に来る。地域の方は、自然の偉大さや命の営みを通して子どもたちの心が育つことを願っている。また、5年生は、地域の方の田をお借りして米づくりの体験



ホタル小屋



ホタル小屋内部の飼育水槽

を行う。残念ながら今年はコロナ禍の中、実施ができなかったが観察等も行っている。その際、農業を営んでいらつしやる地域の方から毎年「大地からの言伝(ことづて)」という貴重なお話をさせていただく。

お米や野菜は、大地からの恵みです。米づくりは数千年前の弥生時代、親から子へ、子からそのまた子どもへと長く、受け継がれてきました。全ては、一粒の種から始まっています。大地は、私たちにたくさんの米を授けてくれました。だから私たちは食べられるのです。米づくりは遠い昔からつながつているのです。実は、人間も同じ、多くの命がつながって今の自分がいるのです。今の自分が生きています。生きるということは、食べることです。食べるといふことは、生かされているということなのです。これからも、感謝していただいでほしいと思います。

日々、大地と向き合い、自然と共存しながら農業を営んでいらつしやる方だからこそ、話される一言一言に重みがあり、児童の心に響いていることを感じている。他にも、安岡の子どもたちのために地域の方々が多いを語ってくださったり、一緒に活動してくださったりしている学習活動が多くある。1年生は、昔遊びを通して、2年生は町探検、3年生はふく風づくり、4年生はホタル飼育、そして5年生は米づくり、6年生は施設体験等、地域の方から様々な学びの機会をいただいで成長していく。

最近、安岡地区は、農地の多くが宅地化されつつある。学校周辺にも大型分譲地が誕生し、百以上の区画が販売される。他地域から多くの若い世代が移り住んでくる。学校周辺の景色も変わりつつある。環境は大きく変わっても、安岡小学校を卒業する子どもたちには、ぜひ、安岡の伝統や地域の思いをしっかりと受け止めて、大きく成長してほしい。今年も卒業式に、地域のおやじの会のメンバーが、竹灯籠を作って飾ってくださいの予定である。卒業を祝う灯がともされる。卒業式にはこうした地域の伝統や思いをしっかりと伝えたい。そして、自分たちが親の立場になったときに、子へ伝えていけるよう願っている。

ふるさと

小野の自然が教えてくれる



防府市立小野中学校
校長 徳本 正

小野中の紹介

本校は防府市北部の農村部、小野にある一小一中の小規模校です。生徒数は49名で、年々減少しています。生徒はどの子も純朴で優しく、落ち着いた学校生活を送っています。しかし、小中学校時代を



桜の下で『お花見弁当』

同じメンバーで過ごし、自分を表現しなくても理解してもらえることが手伝ってか、自分の意見を自分の言葉で表すことが苦手な生徒が多いようです。少数数であるため、多様な考えにふれる機会が少ないといった課題もあります。

小野地域が抱える課題

各地の農村部が抱えるのと同様に、小野にも「人口減少と高齢化」という課題があります。地域の中にある学校として、この課題に向き合わなければなりません。私は、生徒に小野のことをもっと教える必要があると考えています。具体的には、①学習内容に小野の豊かな自然や歴史、文化等を盛り込むこと、②小野の

人々の温かさに接する機会をもつことが挙げられます。小中学校の9年間で、これらに繰り返しふれることで、小野で育つことに誇りをもち、将来どこに住んでも小野のことを想う人になってほしいと願っています。

学校教育目標 「ふるさと小野を愛し、学習したことを実践する生徒の育成」

このような実態の下で考えたのが、この学校教育目標です。「ふるさと小野を愛し」は、「小野地域が抱える課題」に呼応するために、「学習したことを実践する生徒の育成」は、前校長の作られた目標を継承しました。また、今まで学習したことを生かして、自分の言葉で表現してほしいという思いを「実践する生徒」に込めました。

ふるさと小野を愛する生徒に

本校では、第1学年でふるさとを巡る「小野つ子探訪」を実施しています。事前に小野の歴史を地域の方による出前授業で学んだ後、関心のある地域別にグループをつくり、終日、自転車で巡ります。神社や史跡を見学するだけでなく、現地で地域の方の話を聞く場も設けています。

第2学年では職場体験学習を、特にこの2年間はコロナ禍のため、地域の2事業所（小野小学校とふるさと牧場）に依頼し、1日交代で実施しました。

また、地域の方による絵本の読み聞かせなど、地域の支援を得て多くの行事を実施しており、地域の方にふれる機会が多くなっています。

校長として、生徒に直接何ができるのでしようか。理科教員であることを生かし、校長室前に「小野の自然」コーナーを設けることにしました。生徒が身近に触れることができる岩石・動植物などを実物と解説付きで展示しています。

学習したことを実践する生徒に

私は文化祭を「学習したことを実践する場にしよう」と生徒に伝えました。「VOICE」届け、私たちの想い」をテーマに取り組んだ今年は、「小野つ子探訪」などの学年発表、映像作品、楽器演奏、教科の発表、全校合唱等、実に盛り沢山の内容でした。これらの発表をつくり上げるために、今まで学習したことを土台として、学年や縦割り班で意見を出し合い、皆でつくり上げていく様子が伝わってきました。また、少数数であるため生徒一人ひとりがステージに上がる機会が多く、自己有用感を抱くものとなったようです。家族にも参観していただくことができ、好評を得ました。



校長室前の『小野の自然』コーナー

卒業生に贈る言葉

本校で毎年、卒業生に心を込めて贈る言葉があります。これを表し、本寄稿の結びとします。

もしも、何かに迷ったときには「小野の自然」を見つめてください。星、空、山、草、木、鳥、虫、佐波川。黙って、心を穏やかにして見つめてください。何も考えずにそこに身を置いてください。きっとこれらの自然がどうすればよいのか教えてくれます。時間がかかっても、やがて心の底から答えが沸き起こってきます。そうです。答えは小野で育った一人ひとりの心の中にあるのです。



美川小学校で伝えた感謝の気持ち

岩国市立美川小学校
6年 中野 美優

私に通っている美川小学校は今年度で休校します。美川小学校は、美川町にあった三つの小学校が統合してできた学校です。美川中学校もありましたが、生徒の減少により数年前に休校しました。そのため、この美川小学校が美川町にあるたった一つの学校です。

美川小学校には、美川町だからこそできる行事がたくさんあります。美川観音太鼓や森林体験、今年で最後だからと、いかだ下りもさせていただきました。これらの行事は、決して私たちだけでできるものではありません。行事の朝は、早くから準備をしていただいたり、体験の時にいねいに教えてくださったりと、地域の方々のおかげで貴重な体験をすることができました。私たちも地域の方々に何か恩返しができないかと話し合いました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、毎年やっていた行事の中で、中止になったり規模を縮小したりした行事もたくさんあります。私たちは行事が終わると、その行事でお世話になった方々に手紙を書いています。それから、地域の方々に大きな声であいさつをしたり、昼休みは元気に遊んだり、どれも当たり前のことなのかも

しれません。それでも、地域の方々に元気を届けることができるなら、どんなに小さなことでもいいからしてみようと決めました。美川小のことを伝える掲示板を作ろうとか、学校の周りに住んでいらつしやる地域の方々にあいさつをしてまわろうなど、たくさん案を出しています。

もし美川小学校がなくなつたとしても、地域の方々が私たち児童のことを思い出して元気でいてくれるように、私たちも美川小学校での思い出を心に刻み、がんばりたいです。



学校最後の思い出づくり。錦川筏下り



大好きな津布田

山陽小野田市立津布田小学校
6年 高田 穂乃果

春には満開の桜が美しく咲く津布田小学校は、全校児童38人の学校です。少人数だからこそよいところがたくさんあります。

例えば、運動会のリレーには全員出場することが出来ます。1年生から出られるので、とてもよい経験になります。私は、今年の運動会で団長になりました。津布田小最後の運動会で団長になれてうれしかったです。最後に、みんなでバルーンリレースができてとてもよい思い出になりました。

また、全校遊びができるのもとてもよいところです。今年度は、「みんなで遊ぼうプロジェクト」が中心となり、全校でおにごっこやドッジボールをしました。

このように、一人ひとりが主役になれたり、一人ひとりと親しくなれたりするよさがあります。

今年度閉校に向け、私たち5・6年生は総合的な学習の時間にプロジェクトチームを立ち上げました。

私は、「フラワープロジェクト」の社長になりました。自分たちで花壇の土を耕して、植える花の位置を決め、花を植えました。その後のお世話も自分たちで行いました。土を耕すときは力があるし、花を植えた後

の草抜きなど大変なこともありましたが、地域の方も手伝ってくれたり、花壇に花が咲いたときは、達成感がいっぱいでもうれしかったです。花壇を少し背のびしてみると、その背景に海が重なります。閉校になつても、地域の方とともに花壇を見守っていきたいです。

津布田小学校がなくなつてしまうのはさみしいけれど、最後の卒業生として津布田小学校で過ごした思い出を大切に中学校でもがんばりたいです。そして、自然いっぱい大好きなふるさと津布田をいつまでも大切にしたいです。



最後の運動会 バルーンリレース



ありがとう 名池小

下関市立名池小学校

6年 梶野 穂乃果

私が6年間通った名池小学校が、今年度で閉校し、新たに「名陵学園」になります。たくさんの方々の思いが詰まった名池小学校が無くなってしまうのは悲しいけれど、最後の卒業生として、立派な姿で旅立ちたいと思います。

閉校する事が決まって、「閉校するまでに何か思い出に残るような事は出来ないか」と、JRC委員会で6年生でも話し合いました。その結果、全校で集会をして仲を深めたり、写真を撮ったりすることに決まりました。閉校行事が最後の行事なので、6年生の立派な姿を見せられたらと思います。

次は6年間で思い出に残った行事についてです。それは、運動会です。名池小最後の運動会で、私があこがれていた「応援団」に入団しました。本当は運動会が5月で、それに向けて練習していましたが、新型コロナウイルスの影響で延期になり、全校のモチベーションが下がっていきましました。ですが、地域の方々や先生たちのおかげで11月に運動会をする事になりました。そして迎えた名池小最後の運動会。スローガンは「みんなが主役、最後まで輝け、名池っ子」。名池小らしいスローガンです。応援



運動会

では練習以上に声も出て、赤白の応援だけでなく、「名池小エール」という名池小学校に感謝するエールもしました。とても最後にふさわしい運動会になったと思います。本当に遊んで、学んで、楽しんでいろいろなことがこの名池小学校でできて幸せでした。そして、先生方や地域の方々に感謝したいです。6年間、私たちを支えてくださり、ありがとうございます。名池小。

148年間続いてきた王江小学校は、長い階段を登った先にあります。6年間通った王江小学校が閉校になると聞いても、私はあまり実感がありませんでした。でも、「もう王江小学校は新しい1年生をむかえることがないんだ」と少し悲しい気持ちになりました。それと同時に私たちは「名陵学園」という新しい学校の1期生になるんだという新たな期待もわきました。

長い歴史をもつ王江小学校は、数少ないユネスコ学校でもあります。ユネスコ国際親善パーティーやユネスコ街頭募金など、さまざまな活動を通して、地域の方々や外国の方々との交流をしてきました。コロナ禍になり、こうした活動ができなかった時期もありましたが、その中でも今年度はコロナ感染予防をしっかりとし、ユネスコ街頭募金に参加してくれた人がたくさんいました。

そして、今年度行われた王江小学校最後の運動会は、王江小学校の卒業生や地域の方々に見守られながらの運動会でした。記念行事として、オリンピックの聖火ランナーの方からトーチを貸していた



最後の運動会

行いました。最後の記念撮影では、王江小学校の卒業生や地域の方も参加し、五輪の隊形になりバルーンを飛ばしました。本当に良い思い出になりました。私たちのためにこまめに準備してくださった先生方、保護者の方々、地域の方々、今までありがとうございました。みなさんに恩返しができるよう、中学生になっても、部活や勉強、いろいろな行事に積極的に取り組みます。

148年間おつかれさま。そして、6年間ありがとう、王江小学校。



148年間おつかれさま王江小学校

下関市立王江小学校

6年 八木 美月



地域連携活動を経験した 自分自身の成長とこれから

山口大学教育学部学校教育教員養成課程
小学校教育コース小学校総合選修
4年 大賀 春來

早いもので大学生活も4年という月日が経とうとしています。私は、萩市で生まれ育ち、小さい時から教師という夢を抱いていました。母校では、学校と地域の方々が子どもたちのために行う地域連携活動が盛んでした。大学でも、それらに関する学びや実践を得る機会が数多くありました。

振り返ってみると、地域の方々の支えがあつてこそこの学校でした。母校の中学校では、私たちが快適に学校生活を送ることができるよう、私たちが使用するいすにテニスボールをつけたり、トイレに置く花を生けたり、本当に多くのことに尽力していただいていたと感じています。高校生の頃は、私も地域の方々と共に「土曜塾」という活動に参加し、中学生に学習の手助けをする活動を行いました。学校と地域の方々が協力し、子どもたちのために尽力する。そのことの大切さを実感しました。

これらを体験していたこともあり、大学ではゼミの教授に声をかけていただき、「やまぐち地域連携教育推進フォーラム」で山口県のコミュニケーション・スクールの現状や課題、これらの対策案などを発表しました。これまで私が経験してきた地域の方々



やまぐち地域連携教育推進フォーラムでの発表

の支えが本当に恵まれていたものだったこと、未来の地域の担い手を育成するためには、さらに地域連携活動が必要で、力を入れていかなければならないことなど、多くのことに気づくことのできた貴重な機会でした。私は、4月から山口県の小学校教員として働き始めます。日々の教育活動に加え、微力ながら地域連携活動に携わり、子どもたちの成長に寄与していきたい。そう考えています。そして今まで関わったすべての方々、学校に対する感謝の気持ちを忘れず、恩返しすることができるよう、今後日々精進していきたいです。



食育活動を通じて

山口県立大学看護栄養学部栄養学科
4年 上利 華穂

私は、自分が作ったものを周りの人が「美味しい」と食べてくれる姿を見るのが好きで、食を通じて多くの人と関わりたいという思いのもと、管理栄養士を目指しました。大学の授業で、食習慣や食環境から起こる病気があることを学び、人々がこういった病気にかかつてしまわないように、食育をしたいという思いを抱きました。

私が食育活動を行った場合は、課外活動における「お弁当の日プロジェクト」と教育実習でした。お弁当の日プロジェクトでは、若者世代をターゲットに、料理教室の開催や動画のQRコードを添付したレシピ集の作成を行うなどし、参加者の台所に立つ機会や、食について考える機会をつくることができました。教育実習では、家庭科の授業で「朝食の大切さ」について授業をさせていただきました。栄養士という専門性を生かす授業づくりに苦戦することがありましたが、自分が伝えたいことが自分の言葉で伝わった時、そしてそれが児童の食生活をよりよくするかもしれないと感じた時、教えることの楽しさを体感することができました。授業見学の際には、児童が公式や単語をた



食生活改善推進委員会の方へのレシピ集の説明

だ覚えるだけでなく、なぜこれはこうなるのだろうと考えている姿を見て、普段何気なく栄養の知識を覚えていた自分も、根拠を基に正しい知識を学ばねばならないと気づかされました。教育というものは、人を育てるものであるとともに、教える自分も子どもたちや周りの先生方によって育てられるのだと学びました。4月からは市役所の栄養士として働きます。乳児から高齢者の方まで関わる方の年齢幅は広いですが、多くの人からたくさんのご意見を吸収し、日々学び成長し続ける自分でありたいと思います。そして、人々の食生活が豊かになるような働きかけをしていきたいです。

山口県の魅力を小学生に



山口学芸大学教育学部教育学科
4年 佐伯 大貴

私の大学生活は、最初の2年間で後半の2年間で生活が大きく変化しました。特に後半の2年間は、コロナ禍により様々なことが制限されるようになりました。

県外への旅行ができなくなった私は、山口県内で多くの経験をしました。県内の様々な場所へ行ったり、その市の有名な特産品を食べたりしました。その他にも、私自身走るのが好きなので、県内のマラソン大会へ積極的に参加しました。このような経験を通して、山口県の魅力や素晴らしさを改めて感じるようになりました。これまでは、山口県の魅力を聞かれた時に、「錦帯橋」や「秋吉台」のような観光名所が思い浮かんでいました。しかし、大学生活を通して、山口県の観光名所はもちろん、県内13市を自転車で巡った時に食べた様々な美味しい郷土料理、下関海響マラソンや友だちと一緒に出場した地元の美和駅伝などで、地域の方々がコロナ禍にも関わらず無事に大会を開催してくださったり、温かい応援をしてくださったりした姿を見てきました。このように、観光名所だけではない、全国に誇ることができると多くの山口県の魅力を、再発見することが後半の2年間で経験

できました。

また、私の大学生活は前述の経験だけでなく、大学の講義や教育実習、ボランティア活動、教師力向上プログラムなどの様々な経験を通して、教師として必要な力や自覚を学ばせていただき、多くの学びで溢れていました。

その学びの中で、山口県は地域教育力日本一を掲げており、地域と共に学んでいくことの大切さを学びました。そこで、山口県の様々な魅力を再発見した経験を活かして、授業内で県内の魅力を取り入れたり、地域の方々との交流を積極的に行ったりして、小学生に山口県の魅力を伝えると共に、郷土に誇りと愛着を持たせていきたいと思っています。



下関海響マラソン2021

理論と実践の融合



宇部フロンティア大学短期大学部保育学科
2年 櫻井 野々花

私は小学生の頃から保育者になるということを目指してきました。そのきっかけは、私は保育所に通っていて、入園したばかりの頃、母がいないことで泣いていた時に、担任だった先生が優しく抱きかかえてくださり私を安心させてくださったことです。そのことをずっと忘れず、その担任の先生に憧れ、保育者を目指すようになりました。

子どもたちの成長を感じながら、自分も子どもたちと共に成長していくことのできる保育者になるために、学校での講義や実習に取り組んできました。保育学科で子どもや保育に関することを学び、同じ保育者を目指す友人たちと意見を交わし、困ったときには先生方の力も借り、助け合いながら充実した学校生活を送ることが出来ていると実感しています。

私がこの2年間で大きく成長を感じることが出来たのは、児童養護施設での実習です。入所している子どもたちの試し行動があり、最初はどうしたらよいか分からずとても困りました。しかし何度か試し行動をされるうちに気付いたことは、子どもの気持ちを受容することがとても大切だということです。相対している私のことを分かってもらえるように、

必ず子どもたちとしっかり向き合うことを心掛けました。そして子どもがなぜ試し行動をするのか考え、私は子どもの試し行動を精一杯受け止めようと決めました。子どもにこの人は向き合ってくれの人だと理解してもらおうことで試し行動が減っていくと考えたからです。子どもたちとしっかり向き合い、一人ひとりの子どもを理解すれば、子どもに合った支援が出来ると思いました。

この度、宇部市役所の採用試験に合格し、4月から宇部市の公立保育所で勤務することになっています。子どもたちとの信頼関係を築き、子どもと共に成長していく保育者になりたいと強く思います。



授業での模擬保育

郷土の歴史を後世に残す

令和3年8月、下関市豊田町の豊田地区まちづくり協議会が、町内とその周辺を結ぶ街道の歴史などを紹介する書籍『豊田の古道』を発刊。書籍のとりまとめをした伊藤修二さんにお話を伺いました。



ふるさと豊田の歴史塾

塾長 伊藤 修二

Q:書籍発刊の理由、きっかけはどんなことでしょうか。

平成25年、歴史が好きな豊田地区の方とともに「ふるさと豊田の歴史塾」を開催しました。

活動の一つとして町内の歴史探訪を実施していましたが、石造物の謂われや刻字を残そうと、石造物の調査を始めました。豊田町の40代から80代までの塾生35名で調査隊をつくり、文献を読んだり、人に聞いたりして調査を行うとともに、町内全域を対象に、実際に足を運び細かく調べる作業を行いました。場所によっては、倒木をチェーンソーで片付けながらの作業もあり、調査に8年、編集に1年をかけて、令和2年10月、A4判291ページの『豊田の石造物』を発刊しました。次は何をしようかと塾生と話し合い、まちづくりの一助になればと豊田町の「古道」についてまとめてみることにしました。石造物調査でのデータやノウハウを生かし、10カ月で発刊できました。



塾生のルート調査 (鍋提峠)

Q:「歴史塾」では他にどんな活動をされていますか。



旧街道の看板設置

毎月一回、自宅で「寺子屋」を開催しています。豊田町内の歴史はもちろんですが、これまで、豊北町や阿武町の歴史、中山忠光卿に関すること、菊川断層のことなどバライテイーに富んだ内容で実施しました。また、ウォーキングやスロージョギングを楽しむ「肥中街道周遊ウォーク」、7年に1度行われる、「浜出祭」などの地域行事に参加し、その様子を報告しました。塾長として自分が講師となり、パワーポイントで資料を作成し講義を行っています。お菓子を食べながらの和気藹々とした塾です。

こうした座学の勉強会の他、旧赤間関街道や旧肥中街道の看板を作成し設置しました。

Q:たくさん地元コミュニティのお世話をされていますが活動の様子を教えてください。

これまでに、他の書籍として『ふるさとのこぼれ話』『あきない今むかし』『長正司ものがたり』『豊田のふるさと誌』等を発刊してきました。

また、地元の小学校の学校運営協議会会長として、出前授業や花壇の手入れなどの環境整備等を行っています。児童から質問に答える形で、地元の交通安全の塔や図書館横にある長門鉄道の「レール」について話したこともありました。

出前授業でも、パワーポイントを使っています。プリンターやスキャナー等の機器を自宅に揃え、日頃から踏査等で得た資料は整理し、データ化して残すように努めています。

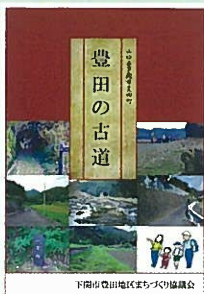
Q:精力的に活動をされていますが、今後やってみたいことはどんなことでしょうか。



74年ぶりに帰還した「長門ポツポ」

二つあります。一つは『(仮)長門鉄道ものがたり』を発刊することです。1918年から1956年まで小月と豊田町西市を繋いでいた長門鉄道を走っていたポツポ(SL101号機)を74年ぶりに豊田町道の駅策街道西ノ市に里帰りさせることができました。そこで、長門ポツポを守る会会長もしているので、長門鉄道、ポツポに関する書籍をどうしても発刊したいです。二つ目は、「肥中街道」の調査のまとめです。「肥中街道」については吉敷、美東町、秋芳町、美祿市の方も調査を行っておられます。私たちの調査と合わせて、「肥中街道」に関する調査を二つにまとめたいと思います。

本の紹介



古代から現代に至る街道の変遷をA4判60ページに紹介。主に、肥中街道・赤間関

街道北道筋・長府街道について一里塚、看板、道標、風景などの写真、踏査により作成した地図等により街道の変遷が詳細に述べられている。

踏査の様子がわかる写真もあり、古道の痕跡をたどる苦労がよく分かる。

さらに、ルートが不明な箇所も指摘しており、今後の踏査や地元の方からの情報提供が期待できる。